

『地域医療の拠点を創る；医師会型老人保健施設の展望』



小野 昭雄／厚生省生物製剤課長

要介護老人対策の「切り札」として老人保健施設が創設され、現在、164施設、12,798床が稼働している。

本格的な高齢化社会を迎え、老人や老人を取り巻く人々のニーズが多様化し、従来の施設・サービス体系では十分な対応をしえなくなってきたことが老人保健施設創設の背景にある。その意味では、老人保健施設は既成の概念にとらわれることなく、地域のさまざまなニーズに柔軟に対応していくことが望まれる。

本書は、まず地域医師会として以前から地域の老人対策および地域医療対策に取り組んでいる仙台、大阪、尼崎、神戸の医師会での老人保健施設への取り組みが紹介されている。各医師会とも、若干の相違があるとはいえ、地域の

大阪大学教授 多田羅浩三 編
日本医師会常任理事 瀬尾 摂 撰

老人の保健・医療・福祉・情報システムを医師会主導で体系化し、医師会主導の老人保健施設をそのセンターとして位置付けようとしている。老人ケアにおける医師会、開業医の役割と老人保健施設の果たすべき役割とを探索上でたいへん示唆に富んだ内容となっている。

続いて、老人保健施設に関連する諸問題が取り上げられている。まず、老人医療費をめぐる問題、老人保健施設におけるケアの評価、続いて、イギリス、アメリカ、デンマークの老人医療のシステムが紹介されている。良質で効率的な医療供給体制の確立が指摘され、「医療法」の改正が議論の俎上に上ろうとしている現在、我が国の実情と対比して読むと興味深い。

最後に、老人医療を取り巻く問題を、成人病の健康管理、老人患者の診療の際の注意、プライマリ・ケアからみた老人患者の実態と医療の在りかた、老人の歯科医療の現状が取り上げられている。いずれのテーマも、それだけで本1冊に匹敵する内容であるが、簡明・的確に集約されている。

本書は、その副題にもあるように、今後における地域の老人ケアの拠点到医師会型老人保健施設を位置付けようとの問題意識の下に構成されており、他の類書とは異なったユニークな内容となっているが、老人医療・老人ケアのメニューをすべて取り扱っており、編者のたいへんな努力の跡がうかがえる。

老人保健施設のみならず、老人の医療とケアを考えていく際の貴重な提案を盛り込んだ書としてぜひ御一読をお勧めする。

(A5判、224ページ、図19、定価3090円(税込)、1989年、医学書院刊)